

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
33	独立行政法人酒類総合研究所
<b>題名 (原題/訳)</b> Inverse relationship between alcohol consumption and active Helicobacter pylori infection: the Bristol Helicobacter project. アルコールの摂取と活性ヘリコバクターピロリ感染の間の逆相関;ブリストルヘリコバクタープロジェクト	
<b>執筆者</b> Murray LJ, Lane AJ, Harvey IM, Donovan JL, Nair P, Harvey RF	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Am J Gastroenterol 2002 ;97(11):2750-5	
<b>キーワード</b> H.pylori、アルコール、喫煙、ワイン、ビール、コーヒー	
<b>要旨</b>  本研究の目的は喫煙、アルコールやコーヒーの摂取が活性ヘリコバクターピロリ (H.pylori) の感染に関連しているかについて調べることにある。これは南西イングランドにおける H.pylori 感染撲滅の無作為試行の一環として実施されたものである。調査の対象として全 10537 人の被験者を一般的な 7 つの診療所から集め、活性 H.pylori の感染を調べるため 13C ウレア呼吸テストをおこなった。また喫煙習慣、一般的な週間アルコール摂取量、一日のコーヒー摂取量を調査した。  その結果、喫煙やコーヒーの摂取は H.pylori の感染と関連性は観察されなかった。全アルコール摂取量が少量であると、感染の確率が減少する傾向が観察された (統計的に有意ではなかった)。年齢、性別、民族、子供と大人の社会階級、喫煙、コーヒー摂取量、ワイン以外のアルコール飲料を調整した後、1 週間にワインを 3-6 杯摂取する被験者では、全くワインを摂取しない被験者に比べて H.pylori の感染率が 11% 低かった。ワインの摂取量が多い人では感染リスクは更に 6% 減少していた。3-6 杯のビールの摂取は全くビールを摂取しない人に比べて感染のリスクはワインと同様な減少が観察された。  以上の結果から、適度な量のワインやビールの摂取は (1 週間に約 7 杯程度) H.pylori 感染に対する防御効果があり、H.pylori 撲滅に何らかの寄与をされると考えられる。	